

「まったく男ってしょうがないわねえ」

彼女が苦笑する。

「実家の父のことよ。八十歳になった。ええ、元氣。でも」

『もう車の運転はやめて。事

近所のおばあさんたちにモテ

モテたい男

男って

故を起してからでは遅い。

車を手放して』といくら私が

頼んでもウンと言わない」

それは外出に絶対必要だから？

「ごえ。母は足が悪くから

モチだとか。

「大きなスーパーへの買い物、

入院している友達の見舞いな

どに父がみんなを乗せて行っ

ているよ。母には威張って

いてニコリともしないのに、

いくつになってもモテたい

外では「親切で、いつもニコニコ」。だからアテにされ、チャホヤされる。それがうれしくて運転をやめな

いわけよ」

なるほど。それじゃ、お

ばあさんたちに「事故が心配

ですので父に送迎を頼ま

ないでください」って伝え

てお父さんをモテなくする

しかないね。

「そうする。無事で長生き

してほしいもの」と彼女は

優しい目をした。
(小川由里・作家)